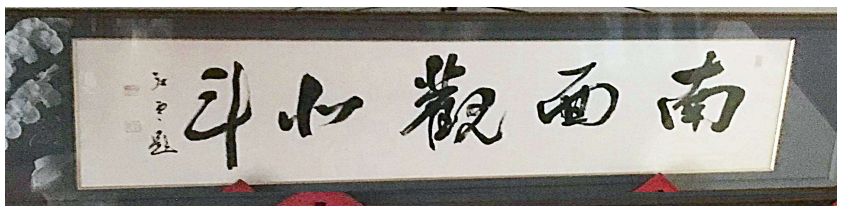
たちばな新聞

発行所 宝清寺
〒197-0821
東京都あきる野市小川101
電話 042-558-2663

明けましておめでとうございます
皆さまのご多幸を祈念致します



上の額「南面観北斗」は、昨年九月二十五日に逝去された渡辺喜三郎様の奥様から、「書道界会長江雲先生に揮毫してもらった額で、主人が居間に大切に飾っていたものです。是非、お寺に飾って頂きたいのですが。」と奉納されたものです。額は管理寺務所玄関を入った本堂入り口の左上鴨居に掛けさせて頂きました。

「南面観北斗」は秦の始皇帝の世界観を表した言葉です。「南面」は、中国では天子が臣下と対面する時、陽の方位である南に面して座したことから、天子となって国を治めること、「北斗」は北斗七星のことで、中国では、天の北極を中心とし展開していく天文観を持っていて、時代が進むと共に整えられ、やがては宮城を囲む「太微垣(たびえん)」、紫微垣(しびえん)」、市場を囲む「天子垣(てんしえん)という三つの区分に分けられた、壮大な天の都が造られました。中国最後の清朝の王宮・紫禁城にもその世界観が継がれています。秦の始皇帝は北の宮殿から「天子南面」し国を治めたのです。

昨年は暗い出来事が多くありました。今年は、始皇帝のように、「秋天に、天下の覇者の夢を見る」ような大きな夢でなくても、夢と希望を持って一日一日の時を大切にして、充実した日々が送れる事を祈念しております。

時間についておもしろい言葉を見つけましたので紹介します。

・一年間の大切さを知るには、浪人生に聞くと良い。
・一ヶ月の大切さを知るには、早産をした母親に聞くと良い。
・一時間の大切さを知るには、待ち合わせをしている恋人に聞くと良い。
・一分の大切さを知るには、電車に乗り遅れた人に聞くと良い。
・一秒の大切さを知るには、たった今事故を避けることが出来た人に聞くと良い。
・一／一〇〇秒の大切さを知るには、オリンピックで銀メダルに終わった人に聞くと良い。

だからあなたの一瞬一瞬を大切にしよう、時間は待ってくれないのだから・・・です。

以前に読んだ小林秀雄の「考えるヒント」だったと思うが、「若者でも向上心のない者は若年寄である」反対に「年寄りでも向上心ある者は永遠の青年である」との言葉を思い出した。

新しい年、一日一日を大切に幸せであれ、しかし、決して現状に満足してはいけない。満足感は結果ではなく、その過程にこそあるのだと思うからです。

宝清寺の年中行事

二月節分	厄除け・星祭
三月彼岸中日	彼岸塔婆供養
四月八日	花まつり(灌仏会)
四月八日	オリエンテンプリング
七月十七日	お盆塔婆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	彼岸塔婆供養
十月十二日	お会式法要
十二月初旬	お釜締札

慶讃事業奉納者芳名

令和元年十二月末現在（順不同　敬称略）

松井　操　小林　初朗

勧募は令和三年まで実施　一口五、０００円
多摩信用金庫秋川支店　普通　一五〇五八四一
宗教法人　宝清寺　代表役員　石井前琮

日蓮聖人の教え（報恩抄）
「一を以て　萬を知る」

『報恩抄』は日蓮聖人が亡き師への弔意を通して、まことの報恩について述べられたお手紙で、その一節です。

狭い視野に留まり広く世間を知ろうとしないことを「井の中の蛙大海を知らず」といいます。しかしこれには「されど空の蒼さを知る」と続きます。たとえ世界は狭くとも、一つの事柄を突き詰めていく事で、その世界の深さや広がりを知ることができます。

現代は情報が氾濫しています。それをキャッチすることも大切ですが、追いかける事に気を取られ、本質を見極める目が曇ってはいないでしょうか。

日蓮聖人は標題の文に続けて「庭戸を出でずして天下を知るとはこれなり」と述べています。「一」を侮ってはいけません。

住職ひと口法話

令和元年十一月十四日夕方から、天皇が一代に一度臨む伝統的な皇位継承儀式「大嘗祭」の中心儀式「大嘗宮の儀」が皇居・東御苑で行われた。一三〇〇年以上続く即位に伴う皇室祭祀で、天皇陛下は神々に新穀を供えて、五穀豊穣と国家の安寧を祈られました。

令和元年十月十二日の宗祖日蓮聖人第七三八遠忌のお会式が台風十九号のため、初めて中止となりました。近年、東日本大震災を始め、各地で自然災害が発生し、「デング熱」や「エボラ出血熱」という耳慣れないウイルス性の病気も発生しています。昨年の台風による豪雨の被害に遭われた方々のなかには、未だ家の修復ができず避難所生活をされている方がおられます。

日蓮聖人が活躍された鎌倉時代と現代社会がよく似ているように思われます。日蓮聖人が『法華経』を世に示された鎌倉時代は、仏教の末法(まっぽう)の世に入っており、自然災害や疫病が蔓延し、人々は苦しい生活に虐げられていました。その窮状を救うためには『法華経』の教えに基づいた国づくりしかないと『立正安国論』を説かれ鎌倉幕府に呈上しましたが、時の執権北条氏には受け入れられず、多くの法難に遭うことになってしまったのです。

時代は遡り平安の末、浄土宗を開かれた法然上人の時代も政権を争う内乱が相次ぎ、飢饉や疫病が蔓延すると共に地震など天災にも見舞われ、人々は不安と混乱のなかにいました。

法然上人は一切経の中から阿弥陀仏の本願を見出し、「南無阿弥陀仏」と唱えることにより全ての人が救われると説きました。

日蓮聖人や法然上人が活躍された時代と現代とでは社会情勢が大きく異なりますが、人の根底にあるものには違いはないと思います。

天皇陛下の「五穀豊穣と国家の安寧」の「祈り」から、あらためて「先祖や父母への感謝」「生きとし生けるものへの感謝」の「祈り」の気持ちを大切にしたいものです。

法華経と私たち　第四回

譬喩品第三

舎利弗は歓喜し釈尊に「ここにいる一千二百人の阿羅漢（小乗仏教で最高の悟りに達した聖者）達は世尊の教えの通り修行を重ね、生・老・病・死を離れて悟りを得たと思いますが、いまだかって聞いた事のない世尊の法を聞いて動揺しています。どうか修行僧達の疑念をはらして下さい。」と言った。

釈尊は譬え話をしようと「ある国に五百人の使用人と二十人の子供がいる、家は古く、門が一カ所しかない長者がいたとしよう。

ある時家が火事になった。それを知らず子供達は遊んでいる。長者は大声で叫んだが、子供達は状況を理解しなかった。そこで長者は子供達の好きな、山羊の車・鹿の車・牛の車があると子供達に伝え、好きな物をあげると言った。子供達は先を争って門から出て無事に火宅を逃れ助かった。子供達は長者の所に来ると、口々にそれぞれの車をくれるようにお願いした。長者は私の資産は限りないから子供達に劣った小さな車を与えるべきでないと、差別せずに七宝で飾られた最高の車をあげた。子供達は望んだ以上の贈り物を貰った。」と話された。

釈尊は「この長者は子供達に嘘をついたのだろうか」と、舎利弗、「長者は子供達を火宅から救い出そうとの考えからなので嘘をついたことにはならない」と答えた。

続けて釈尊は「如来も全くその通り、衆生は三界の火宅にいるため方便を使って、声聞乗（法を聞いて精進し三界を抜け出すこと）は山羊の車に当たるだろう。辟支仏乗（諸佛の教えに会うこともなく、一人で修行して縁起の法を知り、自ら火宅を抜け出すこと）は鹿の車に当たるだろう。菩薩乗（法を聞いて修行を重ね、衆生に利益をもたらそうと精進すること）は牛の車に当たるだろう。」このように諸仏は方便により法を説くのであると答えられた。

お墓のお手入れとお墓の用語集

お墓のお手入れ

どんなに頑丈に作られたお墓でも、時間の経過とともに石に傷がついたり風雨の浸食で風化が生じたりします。地震や地盤沈下によるズレなどの影響もあるかも知れません。お墓を長持ちさせるためには、雑巾やタワシで丹念に汚れを落とし、墓石を洗った後、乾いた布で必ず水分を拭き取っておきます。濡れたままにしておくと苔が生えて劣化する原因になります。これを避けるためには、こまめな掃除が大切です。

お墓に関する用語集

お墓の用語について知っておかれると良いと思いますので、お墓に関する用語を解説致します。

①墓石　石塔の中で家名などを刻（竿石）む中心的な存在。

②カロート　墓石の下の納骨室のことで地上式と地下式があります。地上式は丘カロートと言う。以前はカロート内の土の上に置いていましたが、最近は骨壷のまま納骨することが多いので、底つきのカロートが多いようです。

③外柵　墓地の境界を示すことによりお墓の敷地を表します。広さによっては作れない場合もあります。

④花立　花を供える為の場所で、水鉢の左右に据付けます。

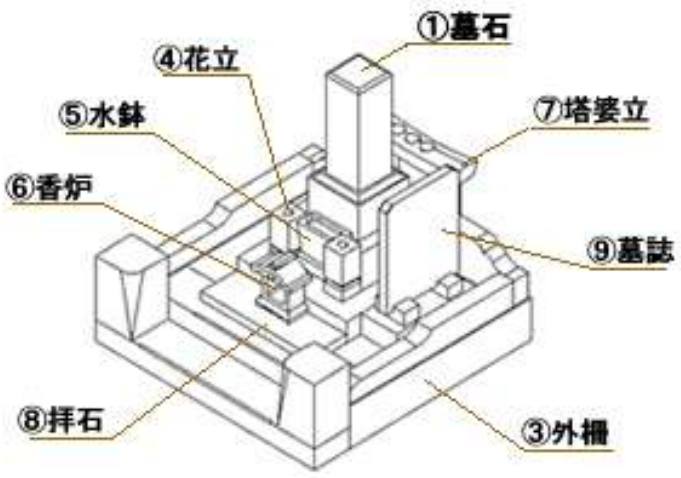
⑤水鉢（みずばち）　ご先祖様に清浄な水を供える為の鉢です。

⑥香炉　お線香を供える為の場所です。

⑦塔婆立　塔婆を建てる為の場所です。

⑧拝石（はいせき）　拝むところとなる石で、カロートの蓋の役割も果たします。

⑨墓誌　戒名や没年月日などを刻むため墓に建てる石板のこと。墓の広さによっては墓誌は建てられない。その場合は竿石の側面に戒名や没年月日を彫ります。



※②カロートは地中にあるため表記していない

節分について

節分の由来

二月三日は「節分」です。節分とは本来、立春・立夏・立秋・立冬それぞれの前日に、年に四回あったのですが、日本では立春は一年の始まりとして特に尊ばれ、次第に「節分」と言えば春の節分のみを指すようになりました。立春を一年の始まりである新年と考えれば、節分は大晦日に当たります。平安時代宮中では、大晦日に陰陽師らによって、旧年の厄や災難を払い清める「追儺（ついな）」の行事が行われていました。室町時代以降は豆をまいて悪鬼を追い出す行事へと発展し、民間に定着していきました。

豆まきの由来

節分に豆をまく、これは中国の風習が伝わったとされ、豆は「魔滅（まめ）」に通じ、無病息災を祈る意味があります。昔、京都の鞍馬に鬼が出たという話が残っており、「魔の目（魔目＝まめ）」に豆を投げつけて「魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通ずるとされています。

豆まきは一般的に、一家の主人あるいは「年男（その年の干支生まれの人）」が豆をまくとされています。年の数だけ豆を食べると、病気にならず健康でいられるといいます。

炒った豆をまくのは、「炒る」は「射る」に通じ、鬼や大豆は陰陽五行説（木・火・土・金・水の五行）の「金」にあたり、この「金」の作用を滅するといわれる「火」で大豆を炒ることで鬼を封じ込め、最後に人間が食べてしまうことにより鬼を退治したことになります。

鬼門と鬼のパンツ

鬼がトラのパンツをはくわけは、「鬼門」に由来するようで、鬼の出入りする方角が「北東」とされ、十二支にあてはめると「丑」「寅」にあたる。そのため鬼は「牛の角をもち」「寅のパンツ」を身につけているとされています。

当山では、二月三日の節分に、厄除け・家内安全・商売繁盛・星まつりのお札の依頼をお受けして、ご祈祷した後にお供物と一緒にお授けしています。

毎年多くの方の依頼をお受けしています。

新たに申込をお考えの方は、管理寺務所までご連絡下さい。

たちばな墓苑　二〇一九年度分　管理料納入のご案内

管理料は、毎年三月末日が納入期限の前納制になっております。未納の方は、早めにお納め頂きますようお願い申し上げます。

納入方法は、ご持参もしくはお振込でも可能です。

ご不明な点がございましたら、管理寺務所までお問い合わせ下さい。

【墓苑管理料振込先】

銀行名　多摩信用金庫　秋川支店

口座番号　一五一六二四九

受取人名　宗教法人宝清寺　代表役員石井前琮（ぜんそう）